# 令和５年度　学校評価（目標設定）

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和２年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容<br>具体的な方策 | 取組の内容<br>評価の観点 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 学習指導　教育課程 | カリキュラム・マネジメントの視点に基づいた系統性のある教育課程を編成し、指導の充実を図る。 | ①全体教科会を活用し、系統性のある教育課程を編成するとともに、三つの柱(学びに向かう力・人間性、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等)を反映した目標と評価を共有する簡潔な指導略案の様式を活用する。 | ①全体教科会を活用し、学部間学年間の情報共有を進め、改善に取り組む。<br>②教務班を中心に、個別教育計画作成事例研修会を継続し、実際の授業へ反映する。<br>③研究研修班を中心に、教員の学び合いの仕組みを活性化させる。 | ①全体教科会を活用し、系統性のある教育課程を編成したか。<br>②個別教育計画を実際の授業に反映し、目標と評価を共有する指導略案の様式を活用できたか。<br>③教員の学び合いを活性化できたか。 |
| 2 | 児童生徒指導・支援 | 児童・生徒一人ひとりが、自分やお互いを尊重し、高めあう力を育むための支援・指導を組織的に行う。 | ①教材やＩＣＴ機器を活用し、ねらいを明確にした授業づくりを行う。<br>②児童・生徒がお互いの良さを認め合えるよう、発達段階に合わせたコミュニケーションの指導を進める。 | ①教育的ニーズに応じたＩＣＴ機器を活用した指導を行う。<br>②発達段階に応じたコミュニケーション指導の手立てを学部研究や研究授業等で共有する。 | ①-ア児童・生徒がお互いの良さを実感できる教材や手立てだったか。<br>①-イ教育的ニーズに応じたＩＣＴ機器を活用した指導を行ったか。<br>②コミュニケーションの指導で互いを認め合うように支援できたか。 |
| 3 | 進路指導・支援 | 児童・生徒一人ひとりが、卒業後に地域社会の一員として自分らしく参加できるよう、主体的な活動を促す支援指導を行う。 | ①職業や作業学習等の学習活動を通して、卒業後に地域社会の一員として参加できる基礎的な力を養う。<br>②保護者へ進路に関する情報発信を十分に行う | ①小学部、中学部、高等部、分教室それぞれが地域と連携して職業体験等の学習活動を行う。<br>②進路に関わる情報発信を十分に行う。 | ①職業や作業学習等の活動を実践できたか。<br>②進路に関わる情報を十分に発信できたか。 |
| 4 | 地域等との協働 | 共生社会の実現に向け、地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域等と連携協働した活動の充実を図る。 | ①地域社会の課題に対して、児童生徒の実態を踏まえて主体的に貢献できる授業実践を行い、本人へフィードバックし、確かな成長につなげる。<br>②地域の学校に対して巡回相談の役割の理解促進とセンター的機能の充実を目指す。<br>③切れ目ない支援部会と連携し、地域と協働して児童生徒の成長を育む活動等に互いにプラスになるように取組む。 | ①児童生徒の実態を踏まえ、地域等との交流や自治会との連携を行う。<br>②教育相談班を中心に巡回相談を学校コンサルテーションの視点で行う。<br>③橋本高等学校との２校学び合いを推進する。 | ①体験を振り返り、自分自身の成長につなげられるよう支援したか。<br>②巡回相談の役割（学校コンサルテーションの視点含む）を理解促進できたか。<br>③-ア切れ目ない支援部会と連携できたか。<br>③-イ地域等と協働して互いにプラスになる活動ができたか。 |
| 5 | 学校運営　学校管理 | 同僚性と専門性の高い人材を育成しつつ、安心安全で、機能性柔軟性のある学校組織づくりを行う。 | ①教職員の専門性の向上と不祥事防止に努める。<br>②校務分掌の班を整理して２年目、的確な引き継ぎと効率的な業務の見直しを行う。<br>③教育環境の整備を進める。<br>④学校ホームページの充実と丁寧な情報発信を行う。 | ①不祥事防止研修に取組み、教員名札の着用とさん付け呼称を推進する。<br>②見直した後の業務遂行状況の把握と改善を行う。<br>③体育館空調工事はプロジェクトチームを中心に対応する。<br>④ホームページ等で学校の取組を紹介する。レイアウト等を工夫する。 | ①-ア不祥事防止研修を通して専門性を高めたか。<br>①-イ名札着用とさん付け呼称を推進できたか。<br>②効率的な業務となるよう改善を進められたか<br>③安全な教育環境を整備できたか。<br>④学校の取組を積極的に発信できたか。 |